



高知県 四万十市
医療法人 島津会 **幡多病院**
理事長：島津栄一氏

稼働電子カルテ
MALL
(パシフィックメディカル)

透析管理システムと一体化した電子カルテが診療情報の一元化と医療の効率化を実現

医療法人島津会 ^{はた}幡多病院 理事長の島津栄一氏は、2010年に電子カルテ「MALL2」を導入して以来、医療のIT化に積極的に取り組んできている。2019年には人工透析との連携に関する各種機能を搭載する「MALL3」に更新。「診療情報や各種検査データ、医用画像などに加え、人工透析に関するデータも一元化でき、非常に完成されたシステムとなった」と同システムを高く評価する島津氏に、医療IT化の経緯と新システムの有用性を中心に話を聞いた。

10年以上前から電子カルテを導入、年々機能を向上させて進化を継続

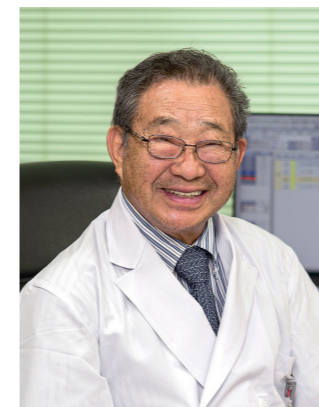
——幡多病院の沿革と概要からお聞かせください。

私は、岐阜大学医学部第一外科大学院在学中に腎移植のチームに入り人工透析治療を学んだのですが、地元、高知県の腎不全で苦しんでいる患者さんのお役に立ちたいと考え、1973（昭和48）年3月に高知市に島津外科胃腸科 人工透析セ

ンター（現・仁栄会島津病院）を開業したのです。

なお、当時は人工透析を行う施設が幡多地域にはなく、同地域の患者さんは鉄道や車で1時間半もかかる高知市に通って治療を受けざるを得ませんでした。患者さんからの強い要望に背中を押され、1978（昭和53）年6月に人工透析治療を行う幡多病院を開業することになったのです。

現在、幡多地域には人工透析治療を受



2019年に更新した電子カルテ「MALL3」について「リーズナブルかつ高性能な電子カルテで、本邦でも最も優れたものの1つ」と絶賛する島津栄一氏。

けている患者さんが約260名おりますが、当院はその内の半数近い125名の患者さんの人工透析治療を行っており、当地域の人工透析治療に関する中核的な医療施設となっています。

当院を含めて高知市の医療法人仁栄会 島津病院（旧島津外科胃腸科）、須崎市の仁栄会島津クリニック、比島町の島津クリニック比島、高知市鴨部の医療法人成仁会 快聖クリニックが島津グループを形成しており、高知県下で高品質な人工透析治療を提供しています。

——電子カルテ導入の経緯、そして変遷と、その評価をお聞かせください。

電子カルテには10年以上前から興味を持っていましたが、過剰に機能が搭載され、しかも高額なシステムなために導入には二の足を踏んでいました。そのような中、リーズナブルな価格で、機能性の高い電子カルテを販売しているベンダーがあると聞き、2010年にパシフィックメディカルの電子カルテ「MALL2」を導入したのです。画面がシンプルで見やすく、直感的に操作できて、導入後すぐに扱いは慣れましたし、機能にも十分納得しました。当時から医用画像に関する機能も有しており、業務の効率化に大いに役立ちましたね。

加えて、ベンダーはユーザー側の要望に積極的に対応してくれていますし、年に2度のバージョンアップで年を追うごとに機能が高まり、現在では非常に完

成された電子カルテと言えるのではないのでしょうか。

——電子カルテに人工透析機能を新たに搭載したと伺いました。

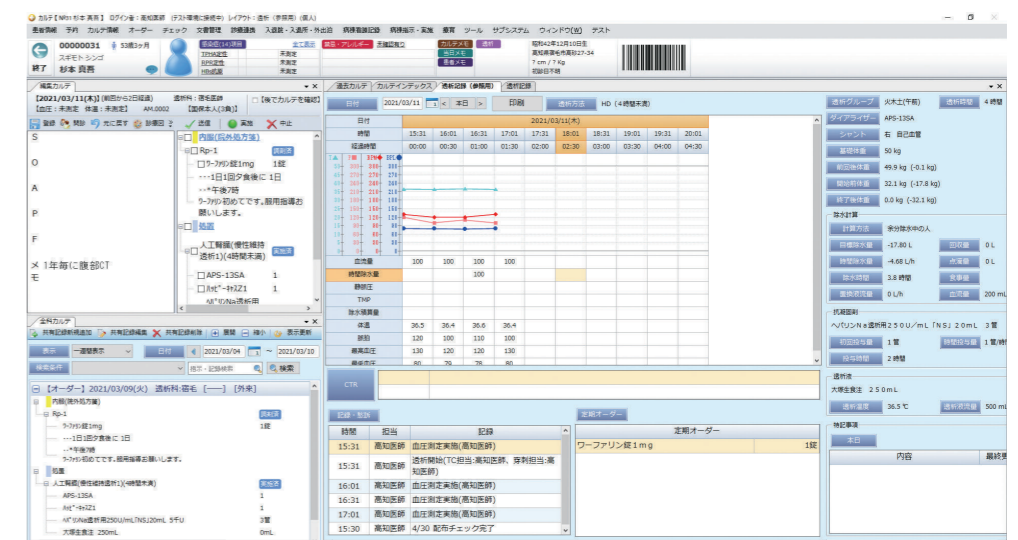
2019年には電子カルテを「MALL3」に更新し、念願だった人工透析に関するシステムを一体化させた電子カルテとなりました。

従来の「MALL2」では、人工透析のシステムと完全に連携できていないため、若干不便を感じていたのですが、「MALL

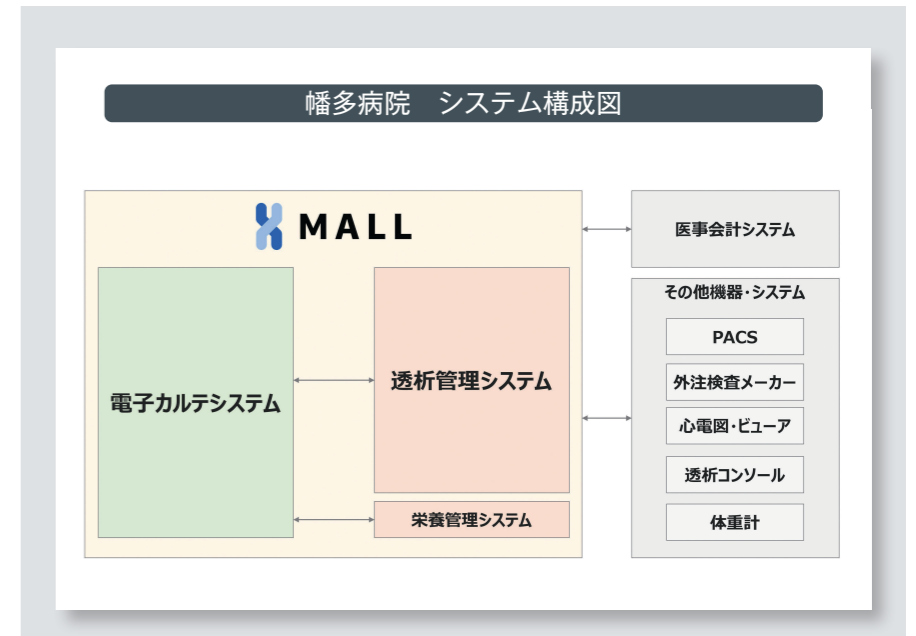
3」では、電子カルテと一体型となる透析管理システムが加わったことで、人工透析に関するデータを一元管理することが可能となり、透析治療の質がかなり向上したと言ってよいでしょう。「MALL3」は、人工透析機能を有する電子カルテとしては、本邦でも最も優れたシステムではないかと感じています。

今後も、「MALL3」を積極的に活用して、幡多地域における人工透析治療に貢献し続けたいと考えています。

透析管理システム一体型電子カルテ「MALL」カルテ画面



電子カルテ「MALL3」の画面。電子カルテ上の診療データと透析管理システム上のデータを1つの画面上で同時に参照することが可能で、診療の効率化に大いに貢献している。（※カルテ画面内の患者名等はダミー）



Interview

幡多病院
事務長

山崎五久春氏

やまさき・いくはる

臨床工学技士長

弘田佳之氏に聞く

ひろた・よしゆき



「透析管理システム側からも電子カルテの診療データを参照することができ、透析治療の質の向上を図ることが可能となった」と話す臨床工学技士長の弘田佳之氏。

幡多病院では、島津理事長のインタビューにもあるとおり、2019年に電子カルテを「MALL3」に更新。電子カルテと透析管理システムが一体化したことで、同院の念願だった診療データと人工透析に関するデータの一元化を実現できたと同院事務長の山崎五久春氏は話す。

「電子カルテと人工透析に関するシステムを連携させることは、当グループの念願でもありました。パシフィックメディカルには、長年、人工透析に関する機能の開発と電子カルテとの連携を要望してきましたが、島津グループ内の快聖クリニックで同社が開発した人工透析に関する各種機能を試験導入した結果、活用できる目処がついたこともあり、2019年に同機能を一体化させることができる電子カルテ「MALL3」に更新しました。

人工透析装置には電子カルテから患者情報が、透析管理システムから透析条件などがシステムを介して送られ、同装置から実施情報を自動的にシステムに送り返されることで、効率化だけでなく医療安全面にもシステムが貢献している。

なお、幡多病院では、すでに前のバージョンである「MALL2」を長年運用してきたので、スタッフは操作にすぐに慣れましたね。

導入後の細かな不具合等は、パシフィックメディカルの担当者が迅速かつ丁寧に改善してくれたことで、目立ったトラブルはありませんでした」

透析管理システムの連携により業務の効率化と医療安全を確保

幡多病院の人工透析治療の体制と現況について、臨床検査技士長の弘田佳之氏はつぎのように話す。

「透析部門のスタッフは臨床工学技士11名と看護師9名です。当院には36床の人工透析施設を有していますが、25床の第一透析室と11床の第二透析室が院内で離れた場所に設置されていることもあり、余裕を持ったスタッフ数で125名の患者さんの人工透析を行っています」

同院のIT化について、弘田氏はつぎのように振り返る。

「2010年の電子カルテ「MALL2」は、業務の効率化と近隣医療施設との連携を目的に導入されました。人工透析については、「MALL2」と他社の透析支援システムを併用する形での運用を開始しました。しかし、それでは検査情報や医用画像は電子カルテで管理できたものの、透析記録をシームレスに連携することはできて

いませんでした。プリントアウトした透析記録をスキャンして電子カルテに取り込むといった手間がかかる上に、透析部門は紙ベースでの運用でしたのでとても効率が悪かったですね」

「MALL3」導入で人工透析に関する機能と電子カルテが一体化し、大幅に業務の効率化が図られたと弘田氏は話す。

「人工透析に訪れた患者さんの受付登録を「MALL3」で行い、次いで患者さんの体重測定を実施します。測定した体重を基に当日の除水量を算出し、そのデー



透析管理用の端末を操作する弘田佳之氏。「紙ベースのシステム運用で起こりがちな病床管理のダブルブッキングや医材管理上のミス等がなくなった」とシステム一体化のメリットを語る。

タを透析装置に転送して透析を開始します。透析開始と同時に「MALL3」へバイタル等、必要な情報をリアルタイムに転送します。透析終了と同時に、人工透析装置とシステムとの連携は自動的に終了します。

なお、電子カルテと人工透析器との連携が終了していないと治療後の体重測定

ができない仕組みになっており、医療安全的な工夫も施されています。

人工透析に関するデータは、すぐに電子カルテに反映されることから、人工透析後の診療時に医師がすぐ参照することができます。データがシームレスに連携できたことで、転記等によるヒューマンエラーもなくなり、医材管理や病床管理



透析管理用のタブレット端末。若いスタッフからは操作が簡単で、患者情報も電子カルテから得られるので便利との評価を得ている。

もシステム上で行えますので、ダブルブッキングなどのミスもなくなりました。

また、医師だけでなく、臨床工学技士や看護師らも、電子カルテ端末上で透析記録に加え、患者さんの既往歴や薬の内服状況、入院患者さんの場合は病棟でのバイタル情報などを知ることができ、その情報を人工透析に反映させることで、より透析効率を高めることが可能になりました」

弘田氏は、「MALL3」の人工透析機能と電子カルテとの連携を高く評価している。

「人工透析を支援するためのシステム単体としては、他社製品にも優れた機能はありますが、「MALL3」の持つ機能でも特段業務で困ったことはありませんし、何よりシームレスなデータ連携が可能なのは、とても有用です。

今後、「MALL3」の開発目標として、透析部門でのコスト算定を実現してほしいと考えています。現在、コスト算定については医事課がレセプトチェックしていますが、透析部門から電子カルテ、レセコンに至るまでシームレスなデータ転送が実現できれば、より効率的な人工透析業務の効率化につながると期待しています」

中小規模病院に見合った電子カルテが必要

電子カルテの必要性とその有用性について、山崎氏はつぎのように話す。

「電子カルテの費用は、当院のような中小規模の医療施設では負担と考えられがちですが、診療情報の一元化や各診療科・部署との連携、患者さんへの対応の迅速化・効率化といった、お金には代えられないメリットが多数あります。また、若いスタッフは電子カルテ導入施設を職場



「これからは地方の中小規模病院にも電子カルテは不可欠。「MALL3」のようなリーズナブルで高機能なシステムの普及を望んでいる」と話す山崎五久春氏。

として選ぶ傾向にあるとも言えます。中小規模の医療施設には、「MALL3」のようなリーズナブルかつ高機能な電子カルテが普及してほしいですね。島津グループでも、仁栄会島津病院に「MALL3」導入を計画中です。

人工透析については、平成28年度の診療報酬改定で診療単価が下げられるなど、行政サイドに人工透析に関する医療費を抑える動きがあります。現在、地域の過疎化が進んでいるものの住民の高齢化の進展によって透析患者は増えていますが、いつかは人口減少の進展に伴い、患者数も減少してくるでしょう。それ故、今後は、病院間連携を密にして、地域全体で患者さんの診療に当たる必要があります。そのことから、今後も医療ITを積極的に活用して、地域密着による医療を展開し続けていきたい考えです」

Hospital Information

医療法人
島津会 幡多病院



住所：高知県四万十市右山天神町10番12号
標榜科目：内科、外科、消化器内科、整形外科、循環器内科、血管外科、放射線科、透析内科、透析外科

高知の透析治療を支える島津グループ幡多地域における中核施設として活動

1983年の開業以来、幡多地域の透析医療を支えている医療法人島津会 幡多病院。36床の透析病床に加え、一般病床数45床の入院施設を有し、さらに認知症対応型共同生活介護グループホーム「かがやき」と小規模多機能型居宅介護施設「おおがた」を開設。開業以来、透析治療を受け続けてきた患者の高齢化に対応した医療を展開している。

同院が透析治療を行っている患

者数は125名におよび、その多くは同院の入院患者でもある。また、高知市内にある仁栄会島津病院といくつかのクリニックとともに、島津グループを形成し、高知県全体の透析治療を支えている。

スタッフ数は、常勤医1名と非常勤医が数名、看護師が26名を数える他、臨床工学技士ら医療スタッフを含めた全職員数は108名を数える。